

中小企業の退職金・年金の決め方

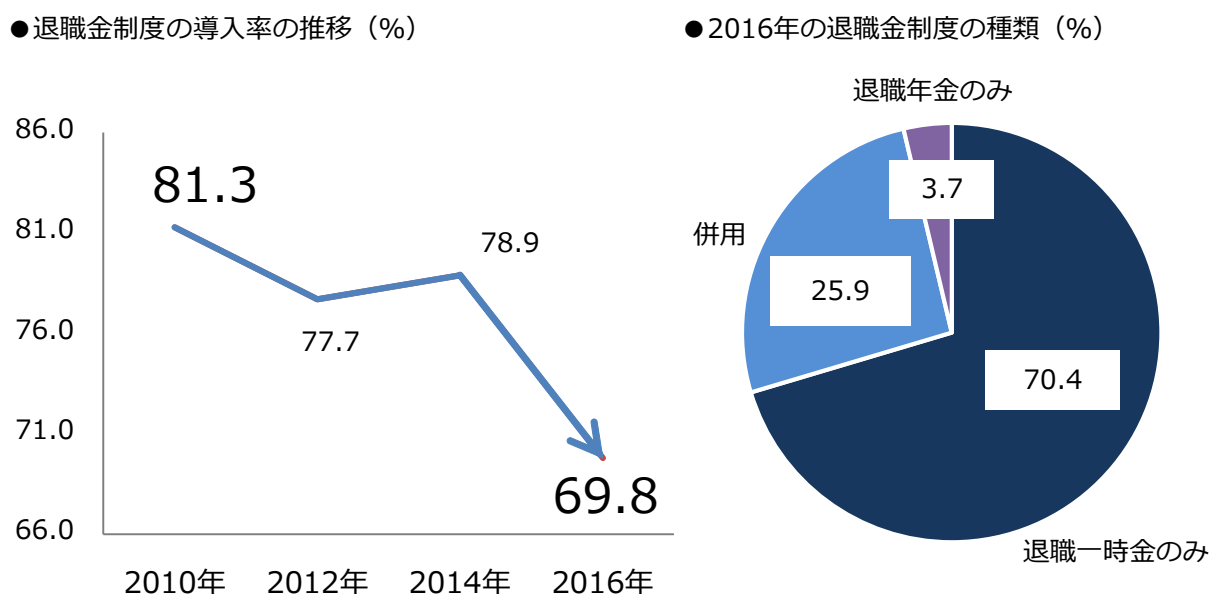
Index

- 1 なぜ、退職金をやめる企業が増えるのか
 - 2 企業が負担する退職給付等の費用
 - 3 退職金制度を廃止する方向
 - 4 退職金制度を見直す方向
 - 5 経営者の決断
 - 6 モデル退職金とモデル賃金
-

1 なぜ、退職金をやめる企業が増えるのか

2016年の中小企業における退職金制度の導入率は69.8%です。2010年は81.3%だったので、この6年間で実に11.5ポイントも低下しました（出所：東京都産業労働局「中小企業の賃金・退職金事情」）。

（図表1）【退職金制度の導入率の推移と退職金制度の種類】

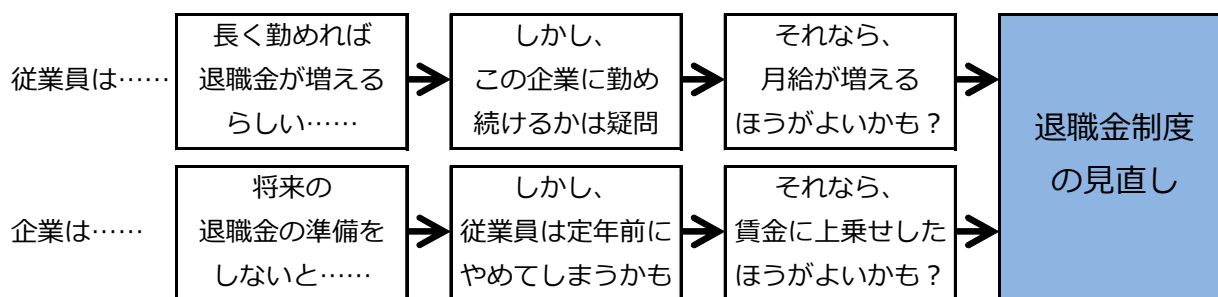


（出所：東京都産業労働局「中小企業の賃金・退職金事情」）

退職金には、一時金で支給する「退職一時金」と、年金形式で支給する「退職年金（企業年金）」があります。中小企業に普及しているのは退職一時金のほうで、70.4%は退職一時金だけの導入です。また、その制度は、長く勤めれば退職金も増える設計です。

こうした退職金制度は、年功主義の下で賃金の後払い機能を持ち、従業員の定着率向上に寄与しました。しかし、今の実情に合いません。定年まで1社に勤め続ける従業員は減り、企業も退職金の原資を足元の賃上げに回したいと考えようになったからです。

（図表2）【退職金制度の見直しが進むシナリオの一例】



（出所：日本情報マート作成）

サンプルレポート

本レポートは、サクセスネットで公開している
ビジネスレポートの一部を公開したサンプルです。
サクセスネットサイトにログインした後、全文を
閲覧することができます。